

告 辞

陽の光に、春の訪れを感じます本日、ここに関係各位のご臨席のもと、令和 5 年度 佛教大学通信教育課程 第 24 回前期大学院学位記、第 68 回前期卒業証書授与式を挙行できますことを大変嬉しく思います。卒業生、修了生の皆さん、本当におめでとうございます。皆さんの卒業、修了を、佛教大学教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。

皆さんが今日という日を迎えることができたのは、お一人お一人のご努力の成果であることはもちろんですが、それに加えて、皆さんを温かく見守ってこられたご家族やご友人など、皆さんを取り巻く周囲の方々のご理解とご支援があったからに他なりません。ご家族やご友人、保護者の皆さまには、今日までのご支援に対し、敬意と感謝を表し、心よりお喜びを申し上げます。

卒業、修了される皆さんにとっては、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中で、の学生生活であったことと思います。もともと孤独な学習を基本とする通信教育の学びではありますが、スクーリングのオンライン化など、教職員や学友とリアルに接する機会を奪われ、本当に困難な中で、の学生生活であったことでしょう。日常生活においても、人と対面で話すことや握手もできない状況のなか、マスクにより相手の素顔を知らないままに終わる人間関係ばかりであったかもしれません。これまで当たり前であった日常が、かけがえのない大切なものであったことに気づかされ、人とのつながりがいかに大切なものであったかを、改めて感じた人も多かったことと思います。

ここ一年は、コロナに関わるさまざまな規制の緩和により、私たちの生活も以前の状態に戻りつつあります。ここに至るまでに皆さんは、想像もしていなかった困難に直面しながらも、その中で自分にできることが何かを考え、それを精一杯実行し、自分が持っている力のすべてを出し切って前に進み、そして本日の卒業・修了にたどり着かれていますことと思います。お一人お一人のそれら貴重な経験が、必ずや今後役に立つ糧となることは間違いないと信じています。そしてこれこそが、目の前に起こる現実をしっかり見据え、自分のなすべきことをなすという仏教精神を体現することに他なりません。佛教大学での学びを終えた皆さんには、一人ひとりの学びと経験が仏教精神そのものであることを心に留め、今後も自信と誇りをもって歩んでいただきたいと思います。

一方、本年 1 月 1 日、能登半島を襲った地震は当たり前のように思い描いていたお正月の姿を全く違ったものへと変えました。今回の地震により命を落とされた方々に心からお悔やみ申し上げます。また被災され、今なお苦しい状況下での生活を余儀なくされているすべての方々にお見舞い申し上げます。3 月 11 日には東日本大震災から 13 年が経過しました。あれだけの災害を経験しながら、私たちはまだ自然災害への十分な備えや対応ができていないことを、改めて痛切に感じています。繰り返し発生する災害を教訓とし、そこでの経験から学ぶことの大切さを忘れずに、現実や困難に

向き合いながら、復興に向けての取り組みを続けていかなければなりません。

世界に目を向けると、ウクライナやガザをはじめとして、紛争は世界各地で起こっており、世界中で平和が脅かされ、難民問題や人種差別など、多くの問題が発生している状況があります。それは遠い世界のことでなく、私たちの日本も決して安全で安定した状態にあるわけではありません。また、私たちの身近でも、差別やいじめ、他者への中傷、身勝手な理由による事件や事故など、平和な生活が脅かされる場面が頻発しており、私たちは誰もがそのような状況に遭遇する可能性を持っています。だからこそ、常に悩み苦しむ人々の存在に自ら気付けることが重要であると考えます。将来に関して不透明・不安定な状況にあっても、常に希望を持ち続け、誰もが幸せを感じることができる社会を築くためにどうすればよいか、私たちは考え続けなければなりません。そのためにも、自分を取り巻く世の中の動向を正確に把握し、それらについて深く洞察しながら、いま自分にできることは何なのか、自分は何をなすべきかについて、自分自身をしっかり見つめながら、考え続けていただきたいと思います。

皆さんは、佛教大学の通信教育課程における学習を通して、さまざまな知見を獲得するとともに、免許や資格を取得し、技術や技能を身につけられ、コロナ禍のような困難な状況でも、眼の前に起こる、時には厳しい現実にもしっかりと対応しながら、長所も短所も含めた自分のすべてを受け入れ、その自分にできることを活かすための力を、それぞれに身に付けられたことと思います。自分の学びに自信を持ち、佛教大学を卒業・修了したことに誇りを持って、目の前の道を一步一步着実に歩んでください。皆さんの、自信と誇りを持った着実な歩みが、未来を形成していくことになります。そして、皆さんの着実な歩みが間違いなく社会に希望をもたらすはずです。一人ひとりが希望の灯となることを信じて、どうか歩みを続けてください。

本日で一旦、皆さんの学びは終了しますが、時代の変化はとても速く、私たちを取り巻く社会は、想像をはるかに超えた速さで変わっていきます。そういった予測不能の時代にあって、社会の急激な変化に対応するためにも、更なる学びが必要とされる時が必ずやってきます。また、現在は生涯にわたって学び続けることが求められる社会でもあります。そのような社会の中で力を発揮するためには、学び直すこと、学び続けること、そして考える力に、さらに磨きをかけることなどが必要となってくるでしょう。もしも新たな学びが必要な時には、再び佛教大学に帰ってきてください。本学には通信教育課程はもとより、大学院、オープンラーニングセンターなど、長い人生における多様なニーズに応えることのできる学びの場が用意されています。また、これからの皆さんの人生の中で、悩んだり迷ったりした時には、焦らずに立ち止まり、振り返って考えてみることも必要でしょう。そのような時にはぜひ佛教大学を思い返してください。皆さんの学びの原点である佛教大学で、私たちは、いつも皆さんを見守っています。そして、教職員一同、皆さんの再訪をいつでもお待ちしております。

卒業、修了される皆さん全員が、明るい未来に希望を託し、自信と誇りを持ってご活躍されることをお祈りし、告辞いたします。

ご卒業・修了、おめでとうございます。

令和6年3月25日

佛教大学長 伊藤 真宏